

平成20年度事業計画

平成20年度事業計画の概要

少子化、規制緩和等に代表される急激な環境変化の時代は、私学に運営基盤の充実、経営資源を有効に活用した競争力の強化等、今まさにその実現に向けた変革を求めている。本法人においては、伝統を基盤とする独自性と進取の精神をもって新たな教育環境の整備、教育内容の充実に取り組んでいるところであり、迅速かつ的確な適応を図ることによって、社会的信頼を高め、持続性を確保すべく、平成20年度事業計画を策定する。

本年度、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学との統合により都市生活学部、人間科学部の設置を申請する。これに伴う大学名称の変更、設置学校の学校名称統一については、平成21年度に実施することとする。このため大学が進むべき方向としての明確なビジョンを構築することを目的として「大学ブランドビジョン委員会」を立ち上げ、昨年10月「大学の新たなブランドビジョンについて」答申されたところである。又これを契機として設置学校間の連携・交流事業を更に推進し、各学校が所有する知的、物的、人的財産等の相互活用を図り、設置学校全体の総合力を高めていく。

武蔵工業大学では、日本の基盤電力として重要な役割を果たしている原子力発電について、安全性の向上や社会的需要など、様々な課題を解決するための人材の育成等、社会的使命・要請に応えるため、本年度工学部に「原子力安全工学科」を開設する。又「環境エネルギー工学科」を環境負荷低減エネルギーの材料開発・システム設計分野を中心とし、物質・材料の基礎研究からシステム応用研究に至るエネルギー・応用科学を扱う学科に変更することから、「エネルギー化学科」と学科名称を変更する。

東横学園高等学校と東横学園大倉山高等学校の統合により今後更なる発展を目指す。これに伴い東横学園大倉山高等学校の廃止申請を行う。

その他、教育面においては、各学校の重点目標に基づき各事業(設置学校の事業計画参照)を実施する。

財政面においては、教育環境の整備充実にも今後多額の資金需要が見込まれることから、長期的に安定的な収入の確保に努めると共に、これらの資金需要に対し特定資産からの取り崩しや保有資産の見直しなどを実施するとともに経常経費支出の更なる削減を徹底して行うこととする。

人事政策においては、平成19年度より新たに評価制度を取入れた人事制度を総合的に構築し、事務職管理職に適用、導入したが、本年度は事務一般職にも適用し、個々の意識改革、資質の向上等人材育成を図り組織活性化、外部競争力強化を目指す。

重点事業計画

1. 広報

平成21年度武蔵工業大学と東横学園女子短期大学の統合に伴う大学の名称変更並びにこれに伴う設置学校の名称統一を実施することから、名称の周知徹底を図る広報を実施する。又新学部開設に伴う学生募集広報を強力に推進する。

このため本年度の広報については、本法人広報委員会を中心に各学校と緊密に連携し広報活動を積極的に展開する。

ブランド戦略広報

名称統一を契機に学校群のブランド力を構築し、社会からのより高い信頼の向上を目的とし、以下の広報活動を推進する。

平成21年度の武蔵工業大学と東横学園女子短期大学の統合による新しい大学のブランド作りのための広報。

平成21年度からの設置学校全体の名称変更に伴う連携した募集広報の徹底を推進し、認知度向上を図る。

教育研究や産学連携等の成果を積極的にPRする。

社会動向や各学校の評価を把握・分析する。

募集広報

各学校が行なっている入学志願者の拡大を主たる目的とした広報活動に加え、新名称の訴求について、これまでの募集広報活動で培った実績及び昨年来立案されてきた計画に基づき、さらに新たなマーケットの開拓を推進する。

内部広報

法人の様々な改革へ向けて、情報の共有と一元化を進めるために以下の広報活動を推進する。

共有化できるコミュニケーション環境の整備(Web 媒体等を積極的に利用した情報共有等)。

ブランドの運用ルールを明確にし、教職員一人ひとりが広報マンであることの意識喚起を促す活動を行なう。

2. 人事

[職員配置]

平成20年度の職員配置については、平成21年度に武蔵工業大学と東横学園女子短期大学の統合により、武蔵工業大学に都市生活学部・人間科学部を開設予定であることから、新学部予定教員を採用し、開設に向けての教育内容の充実を図るなど、具体的な教育環境の整備を行うことにしている。又武蔵工業大学の工学部の学科再編に伴い、今日の社会的使命・要請に適応できる人材育成を目指し、より効率的な人員配置とする。

[平成20年度 職員配置]

職 種 学校名		専任職員			
		教育職員	技術職員	事務職員	計
武蔵工業大学	工学部(院)	157	39	75	271
	原子力研究所	2	2	2	6
	知識工学部	27	3	9	39
	環境情報学部(院)	49		42	91
	計	235	44	128	407
	付属高等学校	46		8	54
	〃 中学校	30		2	32
	第二高等学校	36		9	45
東横学園	女子短期大学	22	4	19	45
	高等学校	28		5	33
	中学校	16		0	16
	大倉山高等学校	0		0	0
	小学校	18		5	23
	二子幼稚園	10		1	11
東急自動車整備専門学校 東急自動車学校		9	69	24	102
法人事務局 事業部				58	58
合計		450	117	259	826

* 新学部採用予定者(15名)は法人事務局職員に含めて計上

* 東横学園大倉山高校は平成20年4月に東横学園高等学校に統合することに伴い、教職員は他の設置校へ配置転換

[新人事制度の導入](目標管理評価制度)

平成19年度より事務管理職を対象に「目標管理評価制度」を導入し、目標課題の達成に向け日々の業務の推進を行っているところであるが、平成20年度は事務一般職に対しても同様の制度を取り入れ、個々の職員の意識改革、資質の向上、人材の育成により組織の活性化を図り、外部競争力強化に向けてより魅力的な学校づくり、マネジメント強化に取り組んでいくこととする。

[事務組織の再編成]

平成21年度に武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合することから、昨年来、プロジェクトチームを中心に各キャンパス間におけるシステム統合を推進しており、全学的な教育研究支援機能、学生サービスの向上を目指し、更に質の高いサポート体制を本年度中に構築、実施する。

3. 財務

平成18年度に策定した5カ年の長期財政計画では、校舎等建設に総額14,810百万円が計画され、平成19年度までに5,827百万円の校舎等建設が終了、平成20年度以降には、武蔵工業大学のキャンパス再構築計画等、3年間で8,983百万円の資金需要を見込んでいる。

本年度は、継続的に行っている教育環境の整備充実に着実に取り組むことに加えて、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学との統合に伴う新学部の施設・設備工事及び大学の新2号館新築工事、武蔵工業大学第二高等学校・東横学園高等学校校舎の耐震補

強工事や昨年度から着手している東横学園小学校校舎建築工事などに多額の資金が必要であり、たいへん厳しい予算編成となっている。

教育環境の整備充実には、今後も多額の資金需要が見込まれることから、長期的に安定的な収入の確保に努めると共に、これらの資金需要に対し特定資産からの取り崩しや保有資産の見直しなどを実施すると共に支出の面では経常経費の更なる削減を徹底して行うこととしている。

4. 施設・設備計画

主な施設・設備計画については下記のとおりである。詳細は「設置学校の事業計画」参照)

用地買収計画

武蔵工業大学：世田谷キャンパス内借用校地の買収（第8号議案参照）

施設・設備計画

校舎新築工事

ア 武蔵工業大学世田谷キャンパス新2号館（第7号議案参照）

イ 東横学園小学校新校舎（継続）

校舎改修工事

ア 武蔵工業大学世田谷キャンパス10・18号館

イ 横浜キャンパス3号館（講義・研究棟）

ウ 武蔵工業大学新学部設置に伴う東横学園女子短期大学校舎増築・改修工事

耐震補強工事

武蔵工業大学第二高等学校校舎（本館・中央館）

東横学園中学校・高等学校校舎（第1校舎）

5. その他（収益事業等）

五島育英会ビル

入居者・利用者の安全と快適性を提供する為適切な施策を実施し、賃貸ビルとしての信頼と競争力を獲得して収益の確保を行なう。

築後20年を経過したことにより劣化した空調設備の大規模改修に関する計画を策定する。

東急自動車学校

大型教習に対応できる教習所の利点を生かし、近隣教習所との差別化を鮮明にする。

二子玉川「都市計画公園」計画については、今後の動向に応じて関係向きとの連携を密にする。

設置学校の事業計画

1. 武蔵工業大学

重点事業計画

東横学園女子短期大学との統合に伴う都市生活学部、人間科学部並びに知識工学部自然科学科の設置準備

原子力安全工学科の教育・研究の円滑な実施

対外広報活動の充実等

統合及び改組等に関わる広報活動の強化

教員業績評価制度の導入

システム構築の完了、授業評価の活用、評価基準問題の解決。

退学者・休学者の低減

学生の問題の早期把握、アカデミックアドバイザー制の導入、指導強化策のための学生カルテなどの問題点に応じた対策の立案実施にて退学者の低減を目指し、休学制度を変更することで安易な休学をなくす。

大学院入試制度及び修了条件の検討

大学院入試改革に取り組む。同時に多様な学生が入学することに対応して適切な修了条件を検討する。

教育活動

工学部・知識工学部の「事例研究」導入

現に3年次後期から研究室仮配属を実施している学科は多いが、これを更に充実発展させる。

教育改善の目標

JABEE など第三者機関の評価による教育の質的向上を目指す。

優れた教育に対する顕彰制度の導入

国内外の地域に密着した実践的環境・情報教育の実施

文部科学省に採択された現代G P 研究活動の円滑な推進

社会的ニーズにあった大学院カリキュラムの整備

大学院教務委員会で取り組んでいる基礎科目の充実に加えて、社会の構造変化に対応できる人材育成を目指してカリキュラムを整備する。

学生及び修了者からのカリキュラム評価利用方法の整備と大学院でのF Dの整備

アクティビティプログラム（活動の評価）実施の検討

一部の大学院専攻で試行中の学生の活動（学会、特許、作品等）の評価方法の結果を踏まえて実施を検討する。

研究・研修活動

優れた研究に対する顕彰制度の導入

重点先行研究のプロジェクト実施

平成19年度より開始した制度で、本学の研究レベルの引き上げと研究成果の社会還元のために継続実施する。

サバティカル的制度を活用して他研究機関等での研究に従事し、レベルの向上を図る。

外部資金獲得のための総合的取組み

研究の一層の充実を目指し、研究委員会と大学院工学研究科が一緒になって、外部資金獲得の戦略を図り、その実現につとめる。

産学連携・共同事業等

他大学との連携交流(室蘭工業大学との国私連携、異分野の私立大学等との連携等)
講義・実習・共同研究・就職協力・学生交流などの教育・研究両面の具体的な連携
高大連携

付属系列3校との連携を強化し、入学者の増加を図ると共に教員・講義の交流を進め一貫校化を推進する。

施設設備計画

新2号館新築工事(第7号議案参照)

世田谷キャンパス再構築計画に基づき、旧2号館跡地に新2号館を新築する。

18号館改修工事

世田谷キャンパス18号館(昭和42年竣工)のトイレが老朽化しているため、改修工事を行う。

10号館改修工事

世田谷キャンパス10号館屋上の手摺は老朽化が著しく、危険であるため改修工事を行う。

横浜キャンパス3号館(講義・研究棟)外装改修工事

横浜キャンパス3号館(講義・研究棟、平成8年竣工)の外壁タイル、窓サッシ廻りの目地(シーリング)の老朽化が進んでいるため、改修工事を行う。

特別計画

PCB処分について

電気電子工学科の実験用トランス油(PCB)の処分(約2トン)を行う。

原子炉廃炉関係

放射性廃棄物の整理、保管、処分等を計画策定。

武蔵工業大学新学部設置に伴う東横学園女子短期大学校舎増築・改修工事
新学部設置に伴う東横学園女子短期大学校舎の改修工事を継続して行う。

2. 武蔵工業大学付属中学校高等学校

重点事業計画

中高6カ年一貫教育体制の確立と教育目標の実現に向けて、校内機構の整備を進めるとともに、計画的な教職員の配置を図り、教職員の意識改革を進め、教育力の向上に努める。

教育活動

中高6カ年一貫教育体制の第二年度として、新しい教育プログラムの下で6年後を見通した教育活動を推進する。同時に先行学年においても現体制の改編・整備を進めながら、全体としての教育効果の向上を図る。

研究・研修活動

教員の教育力の向上を図るため、教員研修制度の整備・改善を進め、実効性を高めていく。特に新任教員・中核教員を対象とした研修(全体研修会・研究授業・外部研修等)、校内での全体研修(夏冬春期の各研修会・進路研修会等)、各自の自主研修の活発化を図り、研修成果が一層教育改善・向上に結びつく方策を探求する。

3. 武蔵工業大学第二高等学校

重点事業計画

入学者増加と中退者の削減のための組織的な活動

ア 進路実績の向上(学習クラブを中心とした個別指導の徹底、塾・予備校との提携。本校主催のものづくりイベントを通してのPR活動。体験学習の実施。中学校との各種連携・出前授業・大学視察・大学へのバスツアー参加等)

イ ニーズへの的確な対応

ウ 学年会、教科担任会、生活指導部、カウンセラーとの組織的な指導により、基本的には一人の生徒も中途挫折させない。

エ 学校教育法の改正に対応した(特別教育支援コーディネーター、校内委員会、教職員研修)取り組みを行う。

情報の共有による職員集団全体の意識改革と組織の見直し(各部会・委員会・学年会・教科会との連携)

ア 企画調整連絡会議による重点的女子生徒戦略

イ 分掌の合理化

ウ 専門性を生かした業務の分担化

外部への情報発信(マスコミ等への積極的なニュースリリース等)

自己評価制度の徹底見直しと次年度への対応、外部評価活用、CSの重視

入試制度改革

特別入試、女子推薦の検証、自己推薦入試等のあり方についての検討、志願者増加に繋がる入試システムへと見直しと市場調査の実施

新学科体制の検証と教育内容検討

各コースのガイダンス、コース決定システム、教育内容の検証、確認、精査等

教育活動

生徒一人ひとりの学びの目的を育て、動機を醸成するために教職員全員が解り易く興味をもてる授業を展開する。(授業アンケートの実施、放課後学習の実施、塾・予備校との連携等)

工業教育を主体としたものづくり学習の徹底、各種資格取得、技能検定のための特別指導の実施

キャリア教育の充実

生徒キャリアカードの作成、外部講師の招聘、インターンシップ制度の充実を図る。

学校評議員会を開催し、幅広く意見を聴取し、本校教育活動の原点とする。

生徒会と学校側が協力し合うシステムを確立し生徒自らの意識を高める指導の継続

研究・研修活動

職員研修会の実施、校外研修参加者の報告会の実施

校内公開授業の実施、校内研究紀要の作成

生活指導、進路指導等各部会、各委員会及び学年会が横との連携を強めながら総力

で対応する運営委員会の設置

産学連携・共同事業

武蔵工業大学との各種連携

環境教育の計画と実践（ISO14001取得へ向けて）

塩尻商工会議所、ボランティア団体との連携

地域の小・中学校へのアプローチ・連携強化

施設設備計画

本館・中央館耐震補強工事

本館及び中央館の耐震補強工事を行う。（総額 150,000 千円）

4．東横学園女子短期大学

重点事業計画

武蔵工業大学との統合（四年制大学への移行）準備と短大の段階的撤収計画

学習及び就職支援体制の強化

教育活動

良質な学習支援及び学生生活支援の強化（両学科）

多様性の拡大と魅力ある教育の推進に伴うキャリアデザイン形成の支援

分野別見学会、資格・就職プログラム（ライフデザイン学科）

国際シンポジウムの開催を通じた異文化理解の更なる推進（保育学科）

研究・研修活動

研究活動

ア 教員の学位取得の推進

イ 科学研究費等の外部資金の導入

ウ 独創的な発想に基づく研究、先駆的な研究分野の発掘

研修活動

ア 学生へ良質な教育を提供するため、学生アンケート等に基づく授業の点検・評価

イ 教員研修会（FD）を基にした授業改善及び点検・評価

産学連携・共同事業等

インターンシップの継続的实施

5．東横学園中学校高等学校

重点事業計画

英語留学コースの英語の授業レベルの向上に向け、使用教材を精選し、指導の充実を図る。

難関大学への合格実績を大きく伸ばすべく、受験指導の充実・強化を図る。

武蔵工業大学への推薦入学者の増加、四年制大学への進学率の更なる上昇を目指す。

英語留学コースの生徒の留学に対する安全・安心面の確保を最優先に考え、準備を万全に整える。

修学旅行の安全な実施に向けて、更に内容の検討を重ねる。

特待生制度、長期留学クラス生徒の授業料減免措置の実施による金銭面の支援
海外からの短期留學生の積極的な受入れを行い、生徒の教育効果を高める。

生徒確保に向けた広報活動の継続

教育活動

生徒対象講演会、その他行事等の実施

総合的な学習の時間においては、学外プログラムの導入を含め、充実したキャリアビジョン教育の推進

サテライト授業、グローバルイングリッシュ等を含めて、情報機器を利用した授業の更なる充実

英語検定、漢字検定等資格取得の更なる推進

研究・研修活動

教員の資質向上及び外部からの学校評価を高めるために、研修会への積極的な参加

教員の指導力向上のための学校主催各種研修会の計画・実施

教員の資質向上を図るための学校主催教員対象研修会の開催

東京私立中学高等学校協会主催の各教科研修への積極的参加による指導力の向上
学校運営（教務・生徒指導等）に係る宿泊研修参加の推進

生徒・教員対象の救急救命研修会の継続的实施

海外研修制度の有効活用による教員の資質向上

産学連携・共同事業等

外部指導者の協力及び外部プログラムの導入により総合的な学習や情報教育、キャリアビジョン教育に生かしていく。

プレインターンシップの実施、クエストエデュケーションプログラム（企業探究プログラム）により生徒の社会性の構築や進路目標設定に役立てる。

武蔵工業大学環境情報学部の支援・指導により中学総合学習及び高校情報科授業をより高度なものとする。

施設設備計画

第1校舎（高校校舎）耐震補強工事（総額 280,000 千円）を行う。

6. 東横学園小学校

重点事業目標

新校舎による新しい施設の設備の有効な活用を図り、更なる高い学力の向上を図る。

学習指導要領の改訂に向け、指導内容、授業時間数、年間指導計画など教育課程を見直す。

問題の解決や探究活動に自主的主体的に取り組めるよう児童会活動、学校行事などの見直しを図る。

教育活動

学習指導

ア 教科部会、学年会、教材研究の時間を確保し、4教科の学力向上を図る。

イ 算数オリジナル問題集の使用法の確立

ウ 国語(読書)年間指導計画の確立

エ 体験学習の系統化と年間指導計画の確立

生活指導

ア 新施設の使い方や約束ごとの徹底

イ 自主性主体性を育むために委員会児童会の持ち方、学校行事等の見直しを図る。

受験指導と進学実績

進路指導の充実と進学校としての合格、進学実績の向上

研究・研修活動

本校教育目標の趣旨を具体化するため、指導方法の工夫改善に関する研究テーマ「高い学力を育むための効果的な指導法の工夫」各教科がテーマに沿った研究課題を設定し、研究授業を通して課題を深める。

共同事業等

武蔵工業大学附属中学校に推薦進学した本学出身者について、進学後の学習状況や学校生活の状況について、附属中学校、本校双方担当で連絡協議会をもつ。

施設設備計画

新校舎新築工事(継続)

平成19年度より新校舎新築工事を行っており、平成21年3月竣工予定。

(総額1,860,000千円、本年度1,663,251千円計上)

7. 東横学園二子幼稚園

重点事業計画

園内研修の充実

教員の保育力の向上

幼稚園教育への理解と大切さの保護者への伝達

教育活動

様々な人とかかわりあう体験をすることで、コミュニケーションをとり、生活体験を広げる。具体的には、先生や友達と共に過ごす楽しみをあげよう活動を行う。又学期ごとに成長に合わせながら、たて割りやグループの活動を行う。

学年の目標

ア 年少組 幼稚園で先生や友達と関わりながら遊ぶ。

イ 年中組 友達や年少・年長組と関わる中で、園のきまりを守ろうとする。

ウ 年長組 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける、良いこと悪いことをよく考えて行動し、友達とのかかわりを深める。

保護者が満足し、一人ひとりの子どもの成長に即した保育を行うため、年少・年中組には各クラスに担任と副担任を配置、年長組には担任と全体で1名の副担任を配置する。

研究・研修活動

幼稚園教育要領における「環境」の領域をテーマとして全教員で取り組む。

外部団体等で行われる研究会や研修会等に参加し、保育力のアップや見識を深めていく。

8. 東急自動車整備専門学校

重点事業計画

学生確保に向けた広報活動の強化

自動車整備士国家試験の全員合格

1級整備士養成課程導入の検討

教育活動

自動車整備士国家試験の全員合格

自動車関連資格の積極的取得

ボランティア活動、ビジネスマナー研修による豊かな人間性の涵養

研究・研修活動

ビジネスマナー研修の実施

地域清掃活動の実施

以 上